

第3回 緑化フェア幹事会 議事録

令和5（2023）年5月29日

■次第と記録記載ページ

- 1 開 会
- 2 全国都市緑化かわさきフェア基本・実施計画策定の進捗状況について
【資料1、2、3】【参考資料1、2、3】
- 3 今後について
- 4 閉 会

■日時と場所

日時：令和5年5月29日（月）10:30～12:00

場所：カルッツかわさき大会議室4

■出席者

幹事（出席9名、1名欠席＜深町幹事＞）			
	分野	氏名（敬称略）	所属
1	学識	福岡 孝則	東京農業大学地域環境科学部 造園科学科 准教授
2	協働推進	栗原 国男	公益財団法人川崎市公園緑地協会嘱託 東京農業大学地域環境科学部地域創成学科 非常勤講師
3	出展展示	深町 貴子	園芸家：多摩区在住
4	交通対策	米川 僚一	一般社団法人 川崎市交通安全協会 専務理事
5	会場運営	渡辺 広之	京都芸術大学芸術教養センター 客員教授
6	行催事	反町 充宏	一般社団法人 川崎市商店街連合会 理事・青年部長
7	広報・PR	大西 絵満	かわさき市民放送株式会社 代表取締役
8	植物調達	矢澤 和洋	セラサ川崎農業協同組合 営農経済本部 組織部 組織支援課 課長代理
9	植物管理	今井 伸之	川崎市造園建設業協同組合 副理事長
10	飲食・物販	萩原 ひとみ	一般社団法人 川崎市観光協会 理事

事務局（木村次長、小酒井部長、石垣課長、藤井課長 他）

■配布資料

資料	1	論点メモ
資料	2	全国都市緑化かわさきフェア基本・実施計画原案【概要版】
資料	3	全国都市緑化かわさきフェア基本・実施計画原案【本編】
参考資料	1	令和5年度 市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェアスケジュール
参考資料	2	緑化フェア幹事会運営規程
参考資料	3	緑化フェア幹事会名簿

■会議録

1 開会

事務局（木村次長）

ただ今から、「第3回緑化フェア幹事会」を開催させていただきます。本日は、大変お忙しい中、当幹事会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。緑化フェア推進室の体制が変わりまして、4月より担当部長として小酒井部長、木村次長、石垣担当課長、藤井担当課長の体制となり、昨年より人数を増やし全18名体制で進めさせていただくことになりましたので、よろしく願いいたします。

まず、議事に先立ちまして、本日の幹事会は、公開とさせていただきます。また、本日の会議録に個々の発言者氏名を記載することをあらかじめ御了解ください。

なお、本日の傍聴者は、いらっしゃいませんが、事務局以外の本市職員も出席しておりますことを御了承ください。

また、本日は大西幹事がオンラインで参加されております。深町委員は体調不良のため欠席致します。

それでは、会議に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。本日の次第、座席表に続きまして、資料1「論点メモ」、資料2「全国都市緑化かわさきフェア基本・実施計画原案（概要版）」、資料3「全国都市緑化かわさきフェア基本・実施計画原案（本編）」、続きまして、参考資料1「令和5年度 市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェアスケジュール」、参考資料2「緑化フェア幹事会運営規程」、参考資料3「緑化フェア幹事会名簿」を配布させていただいております。資料の不備などがございましたら、会議の途中でも構いませんので、事務局までお申出くださいますようお願い申し上げます。資料はPCでも確認できるようA4横に統一して作成を進めております。

それでは、これからの進行は福岡幹事長をお願いいたします。

2. 全国都市緑化かわさきフェア基本・実施計画策定の進捗状況について

福岡幹事長

それでは、私が進行を務めさせていただきます。

続きまして、次第2「全国都市緑化かわさきフェア基本・実施計画策定の進捗状況について」に移らせていただきます。資料1、2、3に基づき、事務局より説明をお願いします。

事務局（石垣担当課長）

緑化フェア推進室の石垣でございます。よろしくお願いいたします。

参考資料1 市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェアスケジュール

まず参考資料1のスケジュールからご説明させていただきます。表面が「共通」「100周年」のスケジュール、裏面が「緑化フェア」のスケジュールを記載しております。「共通」基本・実施計画につきましては8月29日の総会において承認をいただいて策定をさせていただきます。その前に、もう一度幹事会を開催させていただき、最終案を皆さまと議論させていただきたいと考えております。本日から第4回幹事会までに議論が足りない点につきましては、個別にヒアリングをさせていただきたいと思っております。川崎市内部の手続きでございますが、6月・8月の議会において幹事会と同様の内容を説明させていただきます。

裏面の「緑化フェア」スケジュールについて、8月の基本・実施計画の策定に向けて準備を進めると同時に、8月以降は開催に向けた各種設えやマニュアル作成を進めていくものがございます。全国都市緑化祭については、9月に準備会を立ち上げて準備を進めていきたいと思っております。

資料1 論点メモ

資料1に今年度議論していきたいポイントを記載してございます。裏面につきましては、昨年度の幹事会の議論経過を記載してございます。検討時期が第3回、第4回、第5回とございますが、本日第3回で中心に議論させていただきたい内容は、会場計画、出店展示、植物調達・管理、広報仙台・行催事を中心に議論いただければと思います。

資料2 全国都市緑化かわさきフェア基本・実施計画原案（概要版）

今回、実施計画の原案として整理しております。今回新たに追加した視点を記載しております。まず初めに、「協働」につきましては、計画だけではなく協働の具体的な取組がスタートしている点、「広報」につきましては、市内だけではなく市外の関係人口も増やしていく点、「会場」につきましては、エリア全体を会場として設定する点、各コア会場を巡るストーリーを設定して展開していく点、「協賛金」につきましては100周年事業と合わせて検討している途中経過を報告させていただきます。「植物」につきましては、かわさきの花や日

常生活に取り入れやすい植物の活用、「飲食・物販」については、環境先進都市として環境配慮コンテンツに共感した企業等の巻き込みを展開していきたいと考えています。

こうした視点を新たに加えて、次頁以降、基本・実行計画原案として示しております。基本・実行計画は3章構成になっておりまして、第1章が概要、第2章はフェアを一過性のイベントにしないための次の100年を見据えたみどりのまちづくり、第3章はフェアの計画となっております。

第1章(1頁)は緑化フェアの概要になります。背景・目的として環境先進都市として持続的な発展を目指す意義を記載しております。また、令和6年の市制100周年の歴史的な節目に象徴的事業としてフェアを開催するため、次の100年に向けて進んでいきたいと考えております。右下のスケジュールには、今年度から来年度にかけて、山となるイベントを記載しております。

第2章(2頁)みどりのまちづくりについては、「取組姿勢・目指すべき将来像等」ではフェアを一過性のイベントにせず、フェアを通じて次のステージに進んでいくことを意識して進めていきたいと思っております。「みどりの特性や役割」ではみどりが持つ様々な役割や機能がある点に重点を置いて、全体のまちづくりにつなげていきたいと考えております。

第3章(3頁)には行催事等計画を記載しております。「カ 入場者規模・概算事業費」につきましては8月に向けて調整して参りたいと思っております。

(1) 協働推進(4頁)について、これまでの市民協働の取組を大切にしながら、新たなつながりを生む機会としたいと考えております。また、企業、地域の団体等を巻き込み、フェア開催以降も継続できる新たな協働、共創による仕組みを構築していきたいと思っております。市民154万人に知って、関わってもらうことを目指していきたいと思っております。ボランティアによる参加については、これまでの既存ボランティアとの連携を図りながら、様々なボランティアメニューを用意して、市民に気軽に参加していただけるようにしたいと考えております。ボランティアは、10月から募集をかけていきたいと考えております。

次頁(5頁)には、協働の実施例として、「協働の花づくり・花かざり」として各区1校程度、プレ栽培を実験的に行っております。令和6年については全校に広げていきたいと考えております。各学校で栽培したい緑をフェア会場、身近な公園・会場設置したいと考えております。

(2) 観客誘致・広報宣伝(6頁)について、みどりの取組に関わっている市民はもちろん、市民総参加に加えて、市外からも川崎の魅力を感じてもらい、関係人口を増やしていきたいと考えております。広報ツールは100周年事業と一体的に作成を進めており、SNSは6月1日以降開設を予定しております。

(3) 会場計画(7頁)について、3つのコア会場とコンセプトはこれまでの議論の通りとなります。

次頁(8頁)は、全校国類を見ない2期の開催の内容について、秋に皆さんと作り上げる、中間期間を設けて、春にその活動が花開くイメージを記載しております。

次頁（9-10 頁）以降は具体的な会場の計画になります。富士見公園エリアでは、駅からコア会場に至るエリア全体でコンセプトを示していきたいと考えております。駅からフェアの盛り上がりを作り、自然とコア会場に向かっていくような仕掛けを作りたい。富士見公園の中では、街中のみどりから暮らしの中での緑、身近な緑に近づき、会場を出たときには「みどりを育ててみよう」「みどりはよいものだ」というストーリーを実感してもらうような会場配置の工夫を行いたいと思います。

次頁（11-12 頁）の等々力緑地エリアは、多摩川と近接しており、「水やみどりとの関わりに気づき、実感する」を展開イメージにエリア全体で表現をしていきたいと思います。等々力緑地では、体験・体感をコンセプトに、「水とみどりを感じ、自らみどりの価値に気づき、都市の暮らしの楽しさを実感する」コンテンツを入れていきたいと思います。次頁（12 頁）は、コンセプトをもとにイベント会場の施設配置案を記載しております。

次頁（13-14 頁）の生田緑地エリアについて、「まちなかに突然に現れる大自然と秘密の花園。みどりの世界に吸い込まれていく。」をコンセプトに、駅から生田緑地に至るまで、「圧倒的な大自然から、文化・歴史を学び、みどりに触れてみたくなる」ストーリーで作りたいと思います。次頁（14 頁）は、「文化・歴史」×みどりのコンセプトをもとにイベント会場の施設配置案を記載しております。

次頁（15 頁）の協賛連携会場については、基本・実施計画骨子を作成する際に、各区と調整し実施可能な内容を記載しております。今後、実施フェーズに入った段階で各区と調整して決めていきたいと思います。

（4）出展展示（16 頁）について、秋開催期間に予定する全国都市緑化祭等に合わせてコンテスト等を実施する計画としております。展示については、各会場のコンセプトと合わせた内容の検討、企業・団体、高校等の出展庭園コンテスト、ハンギングバスケット出展、川崎の「みどりの歴史」の振り返り、壁面緑化の美しさと技術発信を通して皆様にみどりを感じていただきたいと考えております。

（5）植物調達・管理（17 頁）について、各会場での花、区の花、区の木、市民生活に取り入れやすい花・植物、初心者でも育てやすい、ベランダでも育てやすい植物を検討しております。地域の花では調達を市内産→県内→県外の順に調達したいと考えています。調達に当たっては、JA セレサ川崎や川崎市造園建設業協同組合を中心に植物調達体制を構築し、安定的な調達を実現したいと考えております。

（6）行催事（18 頁）について、右上に「公式」と記載しているものは必ず実施する内容となります。アトラクションのパフォーマンスを通して川崎の魅力を発信したいと考えています。

（7）協賛金（19 頁）について、100 周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会が 1 つでございまして、2 つの事業で共通して協賛金を集めることを基本としております。過去の事例より、協賛金内容のカテゴリー分けを行っておりますが、協賛特典メニューについては、9 月に向けて絞り込みを行いたいと考えております。

(8) 飲食・物販 (20 頁) について、基本的な考え方として地域の飲食店と連携した飲食・物販を提供すること、川崎の農産物や特産品を使用した川崎ならではの魅力ある飲食・物販サービスを提供します。運営では SDGs、環境配慮を心掛けたいと思います。コア会場だけではなく、エリア全体で魅力を感じられるように作っていききたいと思います。

(9) 会場運営・管理、交通輸送 (21-22 頁) について、安全面、環境面を配慮し、市民が広く参加できるボランティア活動等の仕組み、環境負荷低減に寄与する会場運営・管理を行います。交通輸送計画について、川崎では駅に着いた瞬間からおもてなしの環境づくりを目指したいと思います。高度に交通機関が発展した都市部でございますので、基本的には徒歩、公共交通機関を利用してもらうことを前提に来場者に分かりやすい適切な案内を行いたいと思います。生田緑地は施設間が離れており高低差があるため、新しい交通手段を検討しております。また、川崎では特に駐輪場対策が重要でございますので、交通への影響を考慮して進めていききたいと思います。

資料については以上でございます。

意見交換等

福岡幹事長

ご説明ありがとうございました。

それでは、幹事の皆様から御意見等をいただきたいと思います。御意見等がある方は挙手をお願いします。特に、資料 1 の会場計画、出店展示、植物調達・管理、広報仙台・行催事に関してご意見・コメントがあればいただきたいと思います。その他、飲食物販、会場運営に関するご意見をいただきたいと思います。

福岡幹事長

それでは、私の方から発言させていただきます。資料 2 の会場計画 (7 頁) に関して、大きなコンセプトについては皆さんご覧になっていると思いますが、図の中でどの程度のエリアがコア敷地となるのか、会場とエリアが図の中で分かるようになるとういと思います。9 頁の富士見公園会場は、学校・商業・エンタメなどの記載がありますが、対象が民間敷地や公的な緑地、道路、公開空地、民間緑地にわたるため、今後具体的に進める際に、時間をかけて社会実験を行っていくのか、会期中に演出を行うのかなど具体化が必要であると思いました。10 頁について、3 会場に共通していることですが、会場にある複数の個別のコンテンツが「Colors, Future ガーデン」という会場を束ねるテーマのもとに、どのようにつながっていくのか、会場計画で工夫出来ないかと考えていました。例えば、動線やサイン計画での工夫、様々なカラーがあるが全体としては統合するような演出の工夫が必要だと感じました。

12 頁については、等々力緑地はガーデンやグリーンの内容に加えて、スポーツや健康な

どアクティブなものや緑を組み合わせた案にできないかと考えています。緑化フェアで実施しなくてはならない規定に加えて、川崎ならではの3会場の違いが表現できるとよいのではないかと思います。

栗原副幹事長

これまで課題にあった緑に興味がない人の巻き込み、コア会場外のエリアの連携に関して考えていました。今月横浜市の港北オープンガーデンを見に行きました。横浜市では、港北区、旭区、栄区で4、5月にオープンガーデンを実施しており、港北区では日吉駅・綱島駅・大倉山駅を中心にガーデンを巡るものになっています。日吉駅ではガイドツアーを実施しており、区とボランティアの方が丁寧に案内をしてくれるもので、駅に写真や地図が置いてあります。ツアーは午前中で回れる程度のコースの設定になっており、ルートの途中で商店街、行政のコミュニティセンターなどがあります。店前をプランター、上り旗で飾るなど街ぐるみで花の演出を行っている印象がありました。川崎の緑化フェアも春開催で、街や家の花を見るにはよい時期だと思います。横浜では、家ごとにオーナーの方が花を説明してくれたり、一人でパンフレットを持っていると話かけてきてくれる人がいたり、オープンガーデンに参加していない家が自宅前にプランターを出していたり、道行く人との交流が生まれたりしていました。例えば、富士見公園の川崎駅から会場までの道のりを対象に、まちなかをガイドしたり、オープンガーデンを見せることで、会場だけではなくエリア全体での盛り上げることが出来ますし、みどりに興味のない人の巻き込みが出来るのではないのでしょうか。川崎市は7区ありますので、会場のない多摩区、麻生区、宮前区の巻き込み、会場の魅力と合わせたエリア全体の検討を行うことで、緑化フェアのレガシーにもつながるのではないのでしょうか。登戸駅から多摩区を歩いてみる、新百合ヶ丘駅、宮前駅など様々なコースの設定が可能だと思います。地域振興の方、道路公園センターの方、ボランティアとのつながりを活かして、今後検討出来るとうい印象を持ちました。

渡辺幹事

ご説明ありがとうございました。前提として、緑化フェアは100周年事業の一環で行うため、幹事会側にも100周年事業の内容、協賛の連携などを可能な範囲で共有してもらいたいと思います。協賛については、100周年事業への協賛、緑化フェアの協賛、両方の事業への協賛の3通りありますが、協賛者側に分かるような内容の説明が必要であると思います。開催期間については2期、開催時間については、朝・夜の時間の使い方も含めて、最初は幅広く検討してほしいと思います。

交通については、専用の巡回バスは導入せずに、既存の交通網を利用して回遊することになったのでしょうか？

事務局（石垣担当課長）

基本的に既存の交通形態を利用することとし、レストランバスのようなエンターテインメントを含む車両も検討しています。

渡辺幹事

花と植物の種類とボリュームはいつ頃に明らかになるのか。また、広報について、仙台ではデジタルスタンプラリーを行っているが、SNS 活用に加えて、100 周年事業と合わせて緑化フェアのアーカイブ化などの高度なデジタル化（AR,VR, ChatGPT, NFT 等）を検討してほしいと思います。誰に向けてどのような効果を生み出すのかを両事業合わせて検討する必要があります。必要がある内容は事業としてチャレンジしてほしいと思います。

福岡幹事長

企業協賛については、ロゴ掲載のみならず、企業としてプログラム・コンテンツを提供する、例えば、会社のトップが話す、会社の教育プログラムと連携したプログラム、会社の取組の映像化など、企業が関われる内容を幅広く検討出来るとよいのではないのでしょうか。その際、100 周年事業と緑化フェアの関わりの整理が必要になります。

事務局（木村次長）

100 周年事業のスケジュールの中で様々なシンポジウムの開催を検討しています。費用を払ってもらい企業持ち込み型の企画提案などのコンテンツを検討する仕組みを検討しています。100 周年事業の一環としての緑化フェアであるため、一連の取組として整理していきたいと思います。市の窓口を1つにして、企業側からも分かりやすい協賛・分配の仕組みを検討していきたいと思います。

矢澤幹事

かわさきフェアは2期開催ですが、市内産花卉の生産状況とフェアへの提供可能について先日アンケートを行いました。11月の秋開催から3月の春開催の間では、6万6千株の花弁の準備・提供が可能との回答がありました。2期開催であるため、その間の植え替えも合わせて市内産の花弁使用を積極的に検討してほしいと思います。

JA セレサ川崎本店では、毎年正月に花卉部馬絹部による豪華な正月飾りを制作しています。コア会場の1つである等々力会場では毎年成人式を実施しておりますが、成人のお祝い、緑化フェアのPRも兼ねて、同時期に豪華な飾りつけ・植え付けすることで、PR・周知にも効果的ではないでしょうか。

福岡幹事長

植物の調達・管理について事務局から補足があればお願いします。

事務局（藤井担当課長）

資料2の17頁に記載していますが、植物は市内→県内→県外の順で、JAさん等と調整をさせていただきたいと思います。現在、県内の農業高校、学校との連携も検討しているため、全体の数量を整理した上で、調達体制を整えていきたいと思います。

福岡幹事長

川崎市内の市民は、川崎市内で植物が生産されていることをあまり知らないため、食べ物はトレーサビリティとって産地や生産者など分かるようになっていますが、デジタル化も含めて花の産地の情報の整理や産地の見学ツアーなどを検討できるとよいと思いました。

米川幹事

資料2の5頁の協働推進について、市内の小中学校を巻き込んだ花づくりや花飾りに関する報告があったが、交通安全協会では、春と秋に交通安全運動として子供たちと関わる機会があります。子供たちを巻き込んだ取組みの活動写真や記念写真を各区役所のサイネージに移しその下に植物を飾るなど、直接関わらない区も一緒に参画できるようにしてはどうかと思いました。小学校の子供たちの100年後を考えますと、緑化フェアを2代3代と引き継いでいけるようにアーカイブ化する取組みが大事だと思いますし、全校を目標に小中学生を巻き込む取組みは非常に良いことだと思います。

福岡幹事長

各区1校程度でプレ栽培を始めて、全校に広めていくイメージでしょうか。

事務局（木村次長）

小学校につきましては、発芽率や最適な手法、負担の少ない育て方など、最適な方法を確かめてから、全校に提案して展開していきたいと考えています。

事務局（藤井担当課長）

学校でも授業として行うのか、委員会で行うのかなど検討しています。来年以降に各校で参加しやすい方法を検討しています。

事務局（石垣担当課長）

夏休みの水やりが一番の課題になってきており、地域の巻き込みを検討しています。

福岡幹事長

花を飾る取組みを全校に展開するのではなく、各校の課題、例えば学校の取り組みたい課

題や活用できる場所などに合わせて展開できるとよいのではないのでしょうか。ガーデンの形も、花で飾る以外に、土づくりなど色々な方向から間口を広げることで、学校も取り組みやすくなるのではないのでしょうか。学校の課題解決の授業や夏の自由研究と関連して出来るとういのではないのでしょうか。調整が難しい面もあると思いますが、是非検討いただければと思います。

反町幹事

市民総参加の視点で、普段からイベントに関わっています。協賛連携会場の考え方で、いかに既存のイベントや団体の巻き込んでいけるかについて考えています。1つは参加のしやすさが重要になります。学校や学生の取組以外にも、市民や様々な活動に関わっている方にも参加してほしいと思います。その際、種・苗などを一定のタイミングでコア会場から配り、市民に持って帰って育ててもらい、その過程を SNS で発信してもらい、もう1回会場に持ってきてもらうことで、「参加型」で面白いイベントになるのではないのでしょうか。また、普段は緑の印象がない場所を参加型で育てた緑で埋め尽くすと非日常感が演出できるのではないのでしょうか。

イベントは日中開催が中心ですが、川崎は先端的で新しい取組みがたくさんある場所だと思っているので、ナイトタイムエコノミーの推進という視点から夜の開催なども検討してはどうでしょうか。夜間開催に特化したコンテンツ、例えば、緑に囲まれたレストランや植物と映像・照明技術と組み合わせたコンテンツなどを検討してもよいのではないかと。若者が SNS で発信できるようなコンテンツにもなると思います。夜のボランティアや活動する人材も発生するため、様々な開催の形があってもよいと思いました。

福岡幹事長

コンクリートだらけの場所や緑や花のイメージがない場所を緑化していくアイデアはインパクトがあり面白いと思いました。夜のコンテンツはガーデンと組み合わせたレストランやバーの開催、映像コンテンツ、料金設定を高めにするなど川崎らしいものを検討してほしいと思いました。

事務局（藤井担当課長）

富士見公園の再整備の中でも、夜の利活用については議論しています。公園は一般的には子供とお年寄りの利用イメージが高いが、夜間の社会人の利用を促すなど、緑化フェアを通じて、今後は新しい公園利用を提案していきたいと思います。川崎では河川敷でコンサートを行っています。フェアをきっかけに日常化していくような取組みを展開していきたいです。

今井幹事

植物調達について、市内の小中学校で栽培する植物やJAさんに依頼する植物などがあるが、全体では70～75万株程度を想定しているのか。

事務局（木村次長）

会場のイメージで、植え替えをどの程度行うかは精査が必要ですが、他都市の事例を踏まえて計算したものが74～75万株になります。5年前に緑化フェアを実施した横浜では、街なかや里山も含めて、75万株と報道されています。今回川崎では2期開催、3会場を踏まえて精査していきたいと思います。

今井幹事

川崎は2期開ですが、通常の間催期間の5、6月よりも花の種類が少なくなります。調達側からすると、使用する植物やその量を早めに出してもらわないと準備が間に合わないのではないかと焦りを感じています。事前に小売店や市場に話はしていますが、75万株のうち、どの植物がどの程度必要か明確にさせていただく必要があります。会場ごとに使用する花の内容や数量はどの程度決まっているのでしょうか。

事務局（藤井担当課長）

植物の種類の見討は進めているが、確定していないため早急に検討したいと思います。

事務局（木村次長）

会場の最終的なデザインは最後まで調整が発生することが想定されるが、大きなボリュームが必要なものは早め出したいと思います。

福岡幹事長

川崎市で直轄して調達するもの、3会場共通で利用するもの、3会場ごとに独自に使用する花の内容など、出店者が希望する植物など、現在会場全体でどの程度割合の植物を川崎市で用意する必要があるのでしょうか。エリアごとの調達スケジュールを立てていく必要があると感じました。

事務局（藤井担当課長）

その点は遅れをとっていると認識しています。市内産はどの程度の量であれば準備できるのか確認しながら、早めに調達方法の調整をつけたいと思います。現在学校で育てている植物は補足的な個数としてカウントしています。

福岡幹事長

出店者側で花を準備してガーデンをつくる割合はどの程度になるのでしょうか。

事務局（木村次長）

市ではフィールドのみを提供する事業出店をメインに置く場合にはそこにウェイトがきますが、コンテンツ設置する大花壇・修景施設、自治体出店、高校生からの出店については、基本的には市で植物メニューを示して調達することになります。会場のつくり込みによって割合は変わるが、2割程度を想定しています。

事務局（小酒井部長）

割合としては、自主施工の方が少ないと思います。

福岡幹事長

横浜でも同様の検討をしており、海外出店、自治体出店、各区の出店など20エリア程度あるが、その中でも協会が自分たちの財源でコントロールできる部分は作りこんでいこうとしています。川崎市でも、プラチナスポンサーやゴールドスポンサーのガーデンと飲食ビレッジを組み合わせるなど、会場計画の中でメインになるガーデンや組み合わせるコンテンツを整理できるとよいのではないのでしょうか。例えば、ガーデンとファーマーズマーケットを組み合わせた会場では食品メーカーが興味を持ってくれるなど、会場計画の中で植物調達の内容と協賛のコンテンツを上手く組み合わせるとよいのではないのでしょうか。また、市直轄のガーデンと出店エリアなどの会場構成の整理を進める必要があると思います。

ガーデナーの話では、1年以上前から社会実験などで事前に設置する花苗を試して判断することも必要ではないかと思っています。

栗原副幹事長

川崎は秋と春の開催だが、本来は秋の花壇づくりは行わないことが多いため、夏の花壇を11月まで持たせるのか、春花壇を前倒しして準備するのか、あるいはその両方とするのか、または、仮に秋の花壇をつくる場合はフェア期間中の植物の調達が2回になることも検討しておく必要があります。秋の花壇を春まで持たせるのは、現実的には難しいと思います。限られた時間の中で植物を準備することを考えると、現在様々な地区でボランティアさんが花壇づくりを行っており、通常は春に向けて10月に苗を抜いて11月に植え替えをしています。ボランティアさんとはフェアに向けた植え付けの検討を進めたいと考えているので、市の方から具体的な方針を早めに出してもらいたいと思います。ボランティアやガーデナーの意見を聞きながらフェアの植え付けについて、今年考えていきたいと思っています。苗の調達も可能ですし、自分たちで種から苗を作ることも可能です。花壇の作り方の方針を早め

に決めてもらうことで、具体的な苗の調達時期や使用する花の候補も決まってくるのではないのでしょうか。

事務局（小酒井部長）

ご指摘の通り、春まき秋咲き、秋まき春咲きのプロセスを試すのは1度しかないため、今の時期から試験的な栽培を進めていきたいです。会期中に咲く花に限られているため、その中で花壇構成や植物の調達、市民参加の材料の準備を検討していきたいと思います。

萩原幹事

3会場の内容はとてもよいと感じましたが、エントリーの仕方が具体的に示されていないため、緑化フェアへの関わり方（ボランティアや出店など）は8月の承認前からピッチを上げて検討していく必要があると感じました。横浜ガーデンフェスでは、市内の大手企業の受付に会場構成が載ったパンフレットが置かれています。ガーデンフェスに街のホテルやレストランも参加しており、緑や花に関係したメニューがパンフレットに載っています。街を楽しみながら緑化フェスの魅力を発信できるようなものになるとよいと思います。今回の資料にある飲食物販は、会場の内容のみになっているため、エントリーの仕方を工夫して、間口を広げることで、普段イベントに参加している飲食物販だけではなく、川崎の飲食店、ホテルなども巻き込んだ面白い取組みが出来るのではないのでしょうか。全国からも緑化フェアに訪れてほしいですし、観光のまちとしても目玉になる、川崎市内の飲食店やホテル、夜の時間帯など、範囲を広げて仕組みつくってほしいと思います。例えば、スマホのHP上に参画しているレストランのリンクを作るなど、市内外の人が楽しめる取組みが出来るとよいと思います。

福岡幹事長

様々な企業や飲食店などからエントリーできるような仕組みについてご発言がありました。

萩原幹事長

限られた団体だけではなく、ホテル・企業、市内全ての学校などに広げてほしいと思います。

福岡幹事長

市内のホテルや企業もスポンサーという形以外にも、参加の仕方として、本社のまわりのガーデンやホテル中などを造園の方たちに入ってもらって緑化する、その内容を地図上に参加団体として掲載するなどの方法があると思いました。

事務局（木村次長）

これまで会場での作りこみに意識を置いていたところから、今回は駅から会場までのコンテンツを1つのエリアとして考えるように切り替えています。エントリー方法は検討しきれていませんが、会場周囲の巻き込みと合わせて検討したいと思います。

事務局（藤井担当課長）

資料2の15頁の協賛連携会場の中で、既存で地域・地元で頑張っている取組みと一緒に、市全域で盛り上げていきたいという思いがあります。その中で、飲食店やホテルなどが参加できるような内容を具体的に検討していきたいと思います。

福岡幹事長

既存組織のリストアップはまだ出来ていないため、どのようなアプローチが出来そうか検討・整理出来るとよいと思います。既存の団体とは、普段行っているイベントの中で緑化フェアと合わせた企画・プログラムを実施できるとよいと思います。

また、事務局では会場計画で手がいっぱいになってしまうことも想定されるため、庁内の体制として、各区役所のまちづくり系・観光系の部署と上手く連携して、会場以外の地域の巻き込みを検討する組織体制を検討されてはどうかと思いました。

大西幹事

広報の観点で、各会場またはフェア全体でコアとなる企画、集客につながる企画のイメージがより具体的になっていくと各メディアが参画しやすくなると思います。事務局の体制としても、イベントの具体的な企画について詰めていき、市内外の方が行ってみたいくなるようなアイデアやネタについて更に議論が出来るような体制になっていくとよいと思いました。

また、今回は緑に興味がない層をいかに巻き込めるかが成功のポイントになると思います。緑に興味がある方は恐らく積極的に参加をしてくださると思いますが、その他、例えば夜間を中心に賑わいを作っていくナイトタイムエコノミーとのコラボレーションや、今回のフェアに参加することで日常に花や緑を取り入れたり、何かしらの活動に参加したくなるようなきっかけづくりなど、具体的な検討が出来るとよいと思います。これを踏まえて、社会実験、プレイベントの内容を詰めていく必要があると思います。

事務局（石垣担当課長）

広報については、具体的なキラーコンテンツを決めて発信することが重要だと認識しました。

補足情報として、開催1年前のプレ企画案として、NHKと川崎市役所本庁舎前で深町幹事と公開収録することを検討しています（NHK 趣味の園芸）。合わせて本庁舎の緑化を展

示したいと考えています。単なる公開イベント・展示ではなく、WS でみどりのよさを感じてもらふなどの機会をつくっていきたいと思います。

矢澤幹事

本庁舎の完成時期 11 月に合わせて、宮前地区馬絹支部からお花の宝ぶねなどの飾りつけを提案したいと考えているため、検討してほしいと思います。

事務局（石垣担当課長）

本庁舎の完成イベントは、11 月 12 日の前後で展示を検討しています。

福岡幹事長

会場のプログラムや計画を作成した後に、今後会場ごとにやりたい内容などが出てくると思いますが、誰が全体のクオリティをコントロールするのかという点で、プロデューサー、キュレーター的な人を置く必要があるのではないのでしょうか。3 会場ごとにプロデューサーを置くのか、会場ごとにエリアを区分けしてガーデニングデザイナーが監修するのか、または、環境修景植栽などを入れて空間的に仕切り、混在しないようにするなどの工夫が必要ではないのでしょうか。その点の検討はされているのでしょうか。

事務局（藤井担当課長）

会場ごとのコンセプトは異なりますが、全体としてフェアの統一感をどのようにコントロールするか、今後の発注も含めて検討していきたいと思います。大花壇ではデザイナーが絵を描くよりは、市民参加型の花を使うことを発信したいと考えています。現在そのような取組を形にしてくれる市内のデザイナーなどの人材を検討しています。

福岡幹事長

プロデューサーがトップダウンで行うのではなく、市民参加を上手く理解してまとめていく社会派の人が必要になるため、プロデューサーなのかキュレーターなのか、デザイナー、ガーデナー、造園家などの人材が必要になると感じました。

皆様、忌憚ない御意見をありがとうございました。本日、皆様からいただいた御意見等を踏まえ、基本・実施計画に向けて、事務局にて各事業計画の取りまとめをお願いします。それではここで、進行を事務局にお戻しします。

3 その他

事務局（木村次長）

幹事長はじめ各幹事の皆さま、ご意見等ありがとうございました。次に、その他として、幹事の皆様から何かございますでしょうか。

渡辺幹事

プロジェクトを進める際に、規定意義と自由意義を分けていますが、川崎の緑化フェアについても、規定意義の計画は立ってきたと感じます。一方、各幹事の皆様からお話がありましたが、川崎ならではのチャレンジする意義を整理できるとよいと感じました。現状は、提供者が作った計画になっているため、参加者が行きたくなる、協賛したくなるようなイベントという視点で再度検討し、実施計画の中に入れ込んでほしいと思います。

事務局（木村次長）

ありがとうございます。ご指摘の通り、パンフレットは早い段階から情報周知を進める意味で市からの発信の意識が強くなっていますが、受け手側からみて実態が分からないものになっているのが1つの課題だと感じているため、議論を深めていきたいと思います。

4 閉会

事務局（木村次長）

それでは、以上をもちまして、「第3回緑化フェア幹事会」を終了いたします。次第にも記載させていただいておりますが、今後の予定といたしまして、8月の基本・実施計画の策定に向けて、今回は、8月上旬頃の開催を予定しております。その間、6、7月にかけて、別途個別にヒアリング等もさせていただきながら、計画を固めてまいりたいと考えております。

開催まで約1年半となり、計画づくりと並行して、市民、企業、団体の方々を巻き込みながら、フェア開催に向けた機運を高めていきたいと思います。引き続き、アドバイス等よろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。